

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 31 日現在

機関番号：34315

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2010 ~ 2012

課題番号：22520729

研究課題名（和文） ロシア・アメリカ会社の経営から見た帝政ロシアの商業ネットワーク

研究課題名（英文） The management of Russian American Company and commercial network in Imperial Russia

研究代表者 森永 貴子（Morinaga Takako）

立命館大学・文学部・准教授

研究者番号：00466434

研究成果の概要（和文）：

本科研では、ロシア帝国外交文書館(AVPRI、モスクワ)所蔵のロシア・アメリカ会社(RAK)史料フォンドの閲覧が2012年より不可能となったことから計画の大幅な変更が生じた。『イルクーツク商人とキャフタ貿易 帝政ロシアのユーラシア商業』(2011)刊行の他、研究会・シンポジウムにおける展望報告が中心となった。一方、ロシア・アメリカ会社の主要事業の一つとして茶貿易の研究可能性が出てきたため、主にその研究方法や茶貿易に従事した商人家系、都市に関する一連の口頭発表を行った。

研究成果の概要（英文）：

Firstly we planned to work at AVPRI in Moscow, but it closed from 2012 year and couldn't continue analyzing archives on Russian American Company (=Rossiiskaia Amerikanskaiia Kanpaniia, RAK). Meanwhile we published a book "Irkutsk merchants and Kyakhta trade" (2011) and did sequential presentations in workshops on tea trade which RAK engaged. They are mainly about merchant families, cities in tea trade.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2011年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2012年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：

科研費の分科・細目：史学、西洋史

キーワード：(1) 北太平洋 (2) 毛皮貿易 (3) サンクト・ペテルブルグ (4) キャフタ (5) アラスカ (6) 権益 (7) 露米会社 (8) 茶

1. 研究開始当初の背景

研究代表者は帝政ロシアにおける東シベリア商人の商業活動とキャフタ貿易の関係について研究を行ってきた背景から、この問題と密接な関係にあった1799年成立のロシア・アメリカ会社(または露米会社、以下略してRAK)とアラスカの毛皮貿易に関心を

持ち、平成20~21年度科研費補助金・若手研究(スタートアップ)研究課題「ロシア領アメリカの経営と貿易統計」において、具体的な取引額の実態について分析を行ってきた。しかしこの問題についてより深く分析するためには、断片的数値の分析だけではなく、支店や商人、都市とのネットワーク関係につ

いて総合的に明らかにすることが必要と考え、課題設定をした。

2. 研究の目的

本研究の目的は、ロシア初の特権株式会社であるRAKの流通史を検討することで、ロシア帝国におけるユーラシア全体の商業網がいかに形成されたか、商人間のネットワークのあり方がどのようなものだったかを具体的な商人家系や商会の分析と照らし合わせながら明らかにすることである。なぜなら民間会社としての露米会社の株主は当時の帝政ロシアで最も活発な商取引従事者であり、政府関係者のみならずイルクーツク商人、モスクワ商人といった有力商人を多数含んでいるからである。RAKの流通を追うことは19世紀前半における帝政ロシアの商業活発化のプロセスを明らかにする手掛かりとなる。

3. 研究の方法

RAKの一次史料として、ロシア外務省に所属するロシア帝国外交文書館(AVPRI、モスクワ)所蔵のロシア・アメリカ会社史料フォンド、同じくロシア国立古代文書館(RGADA、モスクワ)のユーディン寄贈ロシア・アメリカ会社フォンドが存在し、同時代の文献資料としてロシア国立図書館(レーニン図書館、RGB、モスクワ)、国立公共歴史図書館(GPIB、モスクワ)所蔵の政府刊行雑誌等の活用が可能であることから、主にモスクワにおける史料収集に重点を置いて研究を計画した。また北海道大学スラブ研究センター図書館(札幌)所蔵のアメリカ・ナショナルライブラリー外交文書のマイクロフィルムに含まれるロシア・アメリカ会社史料の活用も想定した。

4. 研究成果

当初計画では、上記研究方法による史料収集を目標としていたが、研究代表者がこれまでほとんど目にしていなかったRAK史料を最も多く所蔵するロシア帝国外交文書館(AVPRI、モスクワ)が2012年から建物修繕のため2年間閉館することが決定し、また同文書館の閲覧制限により、モスクワの短期滞在で多くの史料を収集することは事実上不可能となった。このため、本科研においてはRGADA、RGB、GPIBでの史料収集に重点を置いて史料収集を行った。

本科研の紙媒体による主な研究成果は森永貴子『イルクーツク商人とキャプタ貿易』(北海道出版会、2010年)であり、2004年に一橋大学に提出した学位論文に加筆修正したものの、当時入手できなかったデータや文献を本科研の史料収集により追加し、さ

らにより体系的分析を加えた。タイトルのイルクーツク商人はロシア・アメリカ会社設立に重要な役割を果たした商人集団であり、その出自、ネットワーク解明は同社の経営と流通の問題と密接に関わるものである。今回本書が初めて経済史的分析を行ったことで、本科研テーマである帝政ロシアの商業ネットワークの一端を解明できたと考える。これについての塩谷昌史氏(東北大学・東北アジア研究センター)の書評への返答を行ったのが、森永貴子「塩谷昌史氏の書評へのリプライ」『ロシア史研究』(No.89、2012年1月)である。また、森永貴子「シベリア東西交易とユーラシア流通」『歴史と地理(世界史の研究)』(No.651、2012年2月)では、こうした流通の実態に関する概説的説明を行った。また森永貴子「ノスコフ氏の報告に対するコメント」『20世紀初頭におけるロシアの対外認識』(早稲田大学ロシア研究所、2012年3月)では、早稲田大学ロシア研究所・ユーラシア科研(代表・羽田正)共催のシンポジウムにおいてノスコフ氏(ロシア科学アカデミー歴史研究所サンクトペテルブルク支部)が行った露米関係のイメージ形成に関する研究報告に対し、研究代表者がRAKのアラスカ経営とボストン商人の関係という視点からコメントを行った。さらに森永貴子「近世蝦夷地のロシア人植民者たち—千島列島に見る日本とロシア、辺境と境界の間」『近世史サマフォーラム2012の記録』(2013年4月)は、2012年10月27日に大阪大学で行った報告を文字化したものであり、RAKによる千島列島の植民問題について、毛皮貿易、日露関係の観点からまとめたものである。

学会発表は主に研究会、シンポジウムにおける報告が中心である。ロシア・アメリカ会社の毛皮貿易については、東京大学東洋文化研究所にて行われた国際ワークショップでの報告：[Takako Morinaga](#), “Russian Merchants and Fur Industry in Northern Eurasia from the 17th to the 19th Centuries”, (2011.11.05. Institute for advanced studies on Asia)があり、カナダのマギル大学の研究者 G.キャンベル氏との議論を中心に、北太平洋におけるロシア人毛皮業者の活動を世界経済史の文脈でどのように理解できるか、検討を行った。次に、ロシア・アメリカ会社の主要事業の一つである茶貿易の問題について、以下の

報告を行った。森永貴子「モスクワの茶商人」(2011.01.09. 於：東京大学東洋文化研究所、東京都)は茶貿易史の観点からモスクワ商人との繋がりを考察する試みであり、Takako Morinaga, “Trade and Consumption: Tea in Modern Russia” (2011.02.01. 於：慶應義塾大学三田キャンパス、東京都)も同様である。この視点から、森永貴子「近代ユーラシアにおける茶」(2012.03.17. 於：京都大学、京都府)では、茶貿易、特にニジニー・ノヴゴロドの定期市を通じたユーラシア全体の流通構造解明の可能性を探った。森永貴子「シベリア辺境統治と「税」—地方自治における商人の役割」(2012.06.30. 於：東京大学東洋文化研究所、東京都)は、流通に従事する商人に対する課税と政府側の態度の問題を考察したものである。これらを発展させ、森永貴子「もうひとつの茶の世界史—ロシア商人とサモワール喫茶文化」(2012.09.15. 於：東京大学東洋文化研究所、東京都)では、主にモスクワ商人を中心に帝政ロシアの喫茶文化が普及していくプロセスをどのように見ていくべきか、展望をまとめた。以上の研究成果は研究会における口頭報告と展望が中心となってしまったが、今後より資料集と検討を重ねて論文・著書として刊行していく予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 4 件)

森永貴子「近世蝦夷地のロシア人植民者たち—千島列島に見る日本とロシア、辺境と境界の間」『近世史サマーフォーラム 2012 の記録 アジアを行き交う人びとと国家—多様な歴史学の選択』近世史サマーフォーラム実行委員会、2013年4月、pp.15-25. 査読無し

森永貴子「ノスコフ氏の報告に対するコメント」『20世紀初頭におけるロシアの

対外認識—アメリカ観および日露戦争—』早稲田大学ロシア研究所、2012年3月、pp.118-121. 査読無し

森永貴子「シベリア東西交易とユーラシア流通」『歴史と地理(世界史の研究)』山川出版社、No. 651、2012年2月、pp.51-55. 査読無し

森永貴子「塩谷昌史氏の書評へのリプライ」『ロシア史研究』No.89、2012年1月、pp.76-79. 査読無し

〔学会発表〕(計 7 件)

森永貴子「近世蝦夷地のロシア人植民者たち—千島列島に見る日本とロシア、辺境と境界の間」(近世史サマーフォーラム 2012)2012.10.27. 大阪大学豊中キャンパス、大阪府

森永貴子「もうひとつの茶の世界史—ロシア商人とサモワール喫茶文化」(「新しい世界史に向かって」研究会、科研費基盤(S)「ユーラシアの近代と新しい世界史叙述」代表：羽田正)2012.09.15. 於：東京大学東洋文化研究所、東京都

森永貴子「シベリア辺境統治と「税」—地方自治における商人の役割」(「支配」研究会、科研費基盤(S)「ユーラシアの近代と新しい世界史叙述」代表：羽田正)2012.06.30. 於：東京大学東洋文化研究所、東京都

森永貴子「近代ユーラシアにおける茶」(近代社会史研究会)2012.03.17. 於：京都大学、京都府

Takako Morinaga, “Russian Merchants and Fur Industry in Northern Eurasia from the 17th to the 19th Centuries”, The World/Global history Joint Workshop: Regional Diversity and Eurasian Linkage in the Eighteenth and Nineteenth Centuries. 2011.11.05. Institute for advanced studies on Asia.

Takako Morinaga, “Trade and Consumption: Tea in Modern Russia”, 慶應義塾大学大学院経済学研究科・商学研究科 / 京都大学経済研究所連携グローバルCOE (Center of Excellence)プログラム : Historical Analysis Section International Workshop, “ Global Trade and Merchant Communities in Eurasia: Transitions from the 18th to 19th Centuries ”, 2011.02.01. 於 : 慶應義塾大学三田キャンパス、東京都

森永貴子「モスクワの茶商人」(「モノから見る世界史」研究会、科研費基盤(S)「ユーラシアの近代と新しい世界史叙述」代表 : 羽田正) 2011.01.09. 於 : 東京大学東洋文化研究所、東京都

〔図書〕(計1件)

森永貴子『イルクーツク商人とキャフタ貿易 帝政ロシアのユーラシア商業』北海道大学出版会、2010年10月、532ページ

6. 研究組織

(1) 研究代表者

森永貴子 (Morinaga Takako) 立命館大学・文学部・准教授
研究者番号 : 00466434

(2) 研究分担者

なし ()

研究者番号 :

(3) 連携研究者

なし ()

研究者番号 :